

## 経営改善目標の達成に向けた取組状況

### 1 法人の概要（令和3年7月1日現在）

法人名	(福)神奈川県総合リハビリテーション事業団						
設立年月日	昭和48年2月2日		代表者名	理事長 小宮 重寿			
所在地	神奈川県厚木市七沢516		電話番号	046-249-2240			
基本財産等	27,000,000	円	県出資額	10,000,000	円	県出資率	37.0 %

### 2 法人運営における現状の課題

(1) 専門職員の確保と育成について

リハセンターの病院及び福祉施設における重度・重複障害者の家庭復帰など、質の高いサービスを継続して提供し、その役割・機能を発揮し続けるためには、医師をはじめとする多くの専門職の確保と育成が課題である。

(2) 新たなリハビリテーションサービスの提供

県産業労働局が進める「さがみロボット産業特区」における実証実験フィールドとして「ロボットの開発」への協力、県スポーツ局が進める「障害者の運動促進に向けた取り組み」への協力、福祉子どもみらい局が進める障害者の「自動車運転再開に向けたプログラム構築」への協力、健康医療局とともに進めている「筋電義手の処方訓練」など、県立病院として幅広く行政の課題に協力していく。

(3) 安定した経営基盤づくり

リハセンターが機能を発揮するためには、専門職員の確保・育成に加え経営の安定化が必要である。センター全体の自己収入のうち8割を占める病院の利用率の目標と実績に乖離が生じており、患者確保、利用率の向上が課題である。

(4) 新型コロナウイルスとの共存

患者・利用者をはじめ、職員の感染防止対策に取り組む一方、県民から求められるサービスを安定的に提供できるよう利用率の向上に努めていく必要がある。

(5) コンプライアンスの徹底

700人以上の職員が在籍するリハセンターにおいて、働き方改革に伴う長時間労働の規制や非正規労働者との格差は正等のコンプライアンス遵守に努め、関係法令に適切に対応し、利用者サービスを低下させることなく、効率的・効果的な経営を行っていく必要がある。

### 3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

\* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

#### 【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
1	七沢学園(児童) 家庭復帰率	%	80.0 ( 80.0 )	76.9 ( 80.0 )	66.6 ( 80.5 )	60.0 ( 80.5 )	77.8 ( 81.0 )	B
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	<p>集中療育利用者及び高校生の退所先を家庭復帰率の指標としており、集中療育の利用者はそのほとんどが家庭復帰の扱いとなることから、高校3年生の進路状況が、家庭復帰率に与える影響が大きい。 令和2年度は高校3年生3名のうち2名がグループホームに移行したため、家庭復帰率は昨年度より向上した。</p>				<p>施設生活が長期にわたる利用者が多いため、早期から養護学校卒業後の生活の場について学校進路担当と協議・調整し、体験入所を設定するなど、グループホームのイメージ作りをしていく。また、社会生活能力の向上に向けたアプローチを行っていくことで、家庭復帰率の向上を目指す。</p>			
	備考							
令和2年度退所者9名中、家庭復帰7名、施設移行2名(措置2名)								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
2	七沢学園(児童) 強度行動障害児受入	人	0.2 ( 2.0 )	1.0 ( 2.0 )	0.0 ( 2.0 )	0.4 ( 2.0 )	1.0 ( 2.0 )	C
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	強度行動障害児は全県で約150名、県央地区にその18%程度が居住しているとされるが、施設入所はそのうちの6割程度である。最近では施設に入所せず、地域で支援も受けながら、在宅やグループホームにおいて居住する方も増えており、そうした傾向は今後とも続くと考えられる。 ※平成29年度神奈川県強度行動障害実態調査結果より。なお、同調査は3年に一度実施されているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため実施されていない。				対象となる児童の数が少ないため、目標人数の確保には至っていないが、こうした児童の受け入れの要望があった場合には、しっかりと対応していく。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
3	七沢学園(児童) 集中療育	人	12.0 ( 7.5 )	7.0 ( 7.5 )	6.0 ( 8.0 )	7.0 ( 8.0 )	4.0 ( 8.5 )	C
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、新たな利用者の受け入れが難しい状況下において、感染防止に協力を頂ける利用者4名の受け入れに留まった。				児童相談所及び短期利用者に対して集中療育を積極的に紹介することで利用者の確保に努めるが、新型コロナウイルス感染状況なども考慮し、今後の対応を見定めていく。			
	備考 利用実績 7/1～10/30、8/3～9/29、11/2～11/30、1/25～2/17							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
4	七沢学園(成人) 家庭復帰率	%	50.0 ( 60.0 )	100.0 ( 60.0 )	100.0 ( 60.5 )	72.7 ( 60.5 )	80.0 ( 61.0 )	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	グループホーム等への地域移行が達成できた。				相談支援事業所などとの連携強化や、重度障害者も受け入れ可能なグループホームの情報を収集するなどし、今後も地域移行を目指していく。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
5	七沢学園(成人) 医療重度者受入	人	5.0 ( 3.0 )	5.0 ( 3.0 )	5.0 ( 3.0 )	5.0 ( 3.0 )	5.0 ( 3.0 )	A
	自己評価の理由(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	医療との連携を図り、安定した支援を継続することができ、今年度も目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
6	七沢学園(成人) 強度行動障害者受入	人	5.0 ( 6.0 )	5.0 ( 6.0 )	5.0 ( 6.0 )	5.0 ( 6.0 )	6.0 ( 6.0 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	令和2年度の入所者の中に睡眠障害や他害の改善が難しい利用者が1名おり、その者が強度行動障害に認定されたため目的を達成するに至った。				引き続き行動障害がある利用者を受け入れていく。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
7	七沢学園(児童・成人) 満足度調査評点	点	3.2 ( 3.0 )	3.3 ( 3.0 )	3.6 ( 3.1 )	3.4 ( 3.1 )	3.2 ( 3.1 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	第三者からなる苦情解決委員による月2回の相談日を設け、適切かつ公正に対応するとともに、施設毎の苦情解決第三者委員との情報交換等連携を図るため苦情解決連絡会を年2回実施した。満足度調査の結果は目標値を達成している。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
8	七沢療育園 超・準超重症児受入	人	17.4 ( 10.0 )	16.1 ( 10.0 )	14.1 ( 10.0 )	13.2 ( 10.0 )	13.0 ( 10.0 )	A
	自己評価の理由 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	令和2年2月より新型コロナウイルス感染症予防対策としてショートステイ利用者の受入制限を実施したため、昨年度同様で超・準超重症児者の受入数も減少したが、目標は達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
9	七沢療育園 満足度調査評点	点	3.7 ( 3.4 )	3.9 ( 3.4 )	3.9 ( 3.5 )	3.9 ( 3.5 )	3.8 ( 3.5 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	コロナ禍で利用者と家族などとの面会の制限がある中、生活や日中活動などの様子を家族にリモートや電話、写真、手紙等で報告するなど、家族に園内の状況が分かりやすく伝わったことが評価されたと思われる。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
10	七沢自立支援ホーム 家庭復帰率	%	84.0 ( 90.0 )	87.9 ( 90.0 )	93.3 ( 90.5 )	91.7 ( 90.5 )	91.7 ( 91.0 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	肢体不自由児に対しては、リハ病院と連携し、身体機能の回復・改善に努めた。また、中途視覚障害者（病気による視覚障害になった患者）に対しては、情報機器の活用や視覚障害者スポーツなど地域での在宅生活に向けた支援を行なうとともに、介護保険事業所の活用を図った。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
11	七沢自立支援ホーム 満足度調査評点	点	3.5 ( 2.9 )	3.5 ( 2.9 )	3.5 ( 3.0 )	3.7 ( 3.0 )	3.5 ( 3.0 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	接遇や呼称を常に意識することを心掛け、また利用者からの要望に対する取組が評価され、目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
12	神奈川リハ病院 家庭復帰率	%	89.4 ( 80.0 )	86.6 ( 80.0 )	88.0 ( 80.5 )	88.2 ( 80.5 )	88.9 ( 81.0 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	患者及び家族のニーズに対し、各専門分野の高い技術による的確な医療を提供するとともに、令和元年度に設置した地域連携室により、退院後の地域生活に向けたきめ細やかな準備を行うことで家庭復帰率の目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
13	神奈川リハ病院 満足度調査評点	点	3.5 ( 3.3 )	3.4 ( 3.3 )	3.5 ( 3.4 )	3.6 ( 3.4 )	3.6 ( 3.4 )	A
	自己評価の理由（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	医師や看護師をはじめ各職種で高い評価を得て、目標値を達成することができた。 日頃の接遇や技術の向上への取組が評価されたものと考えており、今後もこの評価を維持・向上できるように努める。							
	備考							

### 【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
1	七沢学園(児童) 利用率	%	90.6 ( 98.0 )	94.1 ( 98.0 )	91.7 ( 98.0 )	93.5 ( 98.0 )	87.5 ( 98.0 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	今年度は、5月に女子利用者が施設不適合となり急遽在宅対応となったこと、また、10月に措置入所の男子児童が家庭引取りになるなど年度中途の退所が続いた。児童相談所と調整を行ったがその欠員が埋まらなかった。				年度途中の欠員補充に関しては、今後とも児童相談所と連携を強化して、適応する利用者の獲得に努めていく。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
2	七沢学園(成人) 利用率	%	98.5 ( 93.1 )	96.8 ( 93.1 )	96.3 ( 93.1 )	90.0 ( 93.1 )	98.4 ( 93.1 )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅に帰れず複数施設を短期利用していた行動障害のある利用者を生活介護の長期入所枠で受け入れたこと、また、生活介護利用者の退所と新入所者の受入れがスムーズで空きベッド日数を少なくできたため目標を達成することができた。							
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
3	七沢療育園 利用率	%	93.0 ( 97.0 )	91.7 ( 97.0 )	91.8 ( 97.0 )	92.0 ( 97.0 )	89.8 ( 97.0 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	県独自の特例的対応である中期入所（レスパイト目的の有期限の療養介護と医療型障害児入所）が令和元年12月末で終了となったこともあり、目標を達成できなかった。				制度変更に伴い、今後は改めて長期入所者の確保に努める。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
4	七沢自立支援ホーム 利用率	%	89.5 ( 94.1 )	87.0 ( 94.1 )	85.1 ( 94.1 )	84.9 ( 94.1 )	73.4 ( 94.1 )	C
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、短期利用及び受託評価を大幅に制限した。 また外出・外泊・面会の規制を強化したことで、利用の辞退や早期退所が増え、利用率は大幅に低下した。				肢体部門においては神奈川県リハ病院リハ科・地域支援センターと連携して、民間では受入れが難しい高次脳機能障害者に対する通所プログラムを開始する。 また新型コロナウイルスの状況が落ち着き次第、近隣の回復期病院等との連携を強化させていく。 視覚部門においては、昨年度に実施したロービジョンに関するアンケートを基に、地域の眼科病院と連携しながら利用促進を図る。			
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
5	神奈川リハビリテーション病院 入院患者利用率	%	80.9 ( 90.0 )	90.7 ( 90.0 )	89.9 ( 90.0 )	83.6 ( 90.0 )	76.5 ( 90.0 )	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	新型コロナウイルス感染への不安感から患者が入院を敬遠したことや、4月に県から不急の手術を延期するよう要請もあり、入院手術患者数も減少した。 クラスター対策のため面会や外出泊を禁止し、病棟の稼働を制限するとともに、県の要請により、新型コロナウイルス感染症の感染患者の下り搬送患者の受け入れのため一部の病床を閉鎖した。				その後、面会や外出泊を若干緩和したものの、新型コロナウイルス感染症による院内クラスターの発生リスクから、これまでと同様の病棟運営は難しい。 引き続き、重点医療機関協力病院として、県の新型コロナウイルス感染症対策に協力しつつ、ワクチンの普及などにより、感染の収束に期待したい。			
	備考							

#### 4 取組実績等についての総括（法人）

- 令和2年度の経営改善目標の達成に向けた取組実績等の2年度自己評価は、目標値に対して達成率100%以上をA、85%～100%未満をB、85%未満をCとした。
- 令和2年度は、神奈川県リハビリテーション病院において、新型コロナウイルスの感染拡大が依然として続く中、リハビリテーション訓練では、感染防止に留意するなど最大限の感染対策を講じて事業を継続した。また、帰国者・接触者外来の設置や、発熱診療等医療機関として神奈川県感染症対策に協力した。現在も、重点医療機関協力病院として神奈川県の新たな医療体制に協力している。
- 福祉施設においても、利用者の感染防止のために短期入所及び通所利用を制限するなどして対策を講じながら事業を継続してきた。
- 病院及び福祉施設の利用者満足度は、施設内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に努め、時節に応じて利用者に対し外泊・外出の制限等の協力を求めた結果、不便である旨の意見等も寄せられ、一部の施設において満足度の低下がみられたが、目標値に対してはすべての項目において目標を達成することができた。
- 令和2年度は病院・福祉施設ともに感染状況の変化を見極めつつ、感染症防止対策を講じながら事業運営に取り組む1年となったが、令和3年度は患者・利用者の安心安全を念頭に、これまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、県立施設としての機能を発揮し、経営計画の着実な推進に取り組むとともに、利用率の改善や人員配置・業務の効率化を進め、収支健全化と県民サービスの維持向上に取り組む。

#### 5 取組実績等についての総括（所管課）

- 新型コロナウイルス感染症の拡大が危惧されるなか、令和2年度は入院患者や施設入所者に外泊や外出の制限等を求めたこと等により一定の影響はあったが、結果として患者満足度や家庭復帰率については目標を達成できたことは評価に値する。
- また、リハ病院においては、帰国者・接触者外来の設置や重点医療機関協力病院として地域の感染症医療に協力していることについても同様である。
- 新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中で、今後も、施設における感染症の拡大防止に細心の注意を払いながら、引き続き施設運営をお願いしたい。
- そして、今後ともこれまで培ってきた専門技術やノウハウを最大限に活用し、県立の施設として機能を発揮し、経営改善の着実な推進に取り組むとともに、利用率の向上や人員配置・業務の効率化を進め、収支の健全化と県民サービスの維持向上に努めていただきたい。

#### 6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
B	ポストコロナ禍での対応による目標達成を強く期待したい。